

令和7年度「ふるさと教育の森」植林体験に参加しました

令和7年6月3日(火)から5日(木)までの3日間にわたり山形県村山市の樽石地区にある国有林で開催された「ふるさと教育の森」にて、植林体験に参加しました。

山形県村山市は、国が提供した土地に国以外の方が造林者となって、その後の収益を国と一定の割合で分収する分収造林制度を利用して「ふるさと教育の森」事業を実施しています。市内の中学校の生徒全員が自ら苗木を植え、育てるという体験学習を通じて、自然や森林の大切さを学び、ふるさとに対する愛着心を育むとともに、体験の中で「生きる力」を育てることをねらいとして開始されたもので、今年度で44回目を迎えました。

昨年度までは山の内地区にて開催されていた植林体験でしたが、今年度からは樽石地区にて分収造林契約を締結し、新たな場所での植林体験となりました。慣れない場所での取り組みでしたが、実行委員会でも何度も現地に足を運びながら、生徒たちが楽しめるように、学べるように、安全なようにと様々な工夫を凝らしながら計画を立てていました。森林管理署も実行委員会の一員として植林の方法の指導や安全指導などのお手伝いをさせて戴きました。

植林活動は6月3日から3日間にわたり計画され、小雨が降った日もありましたが、大きな怪我もなく3日間の植林体験を終えることができました。1日目は葉山中学校2・3年生、2日目は楯岡中学校2年生、3日目は楯岡中学校3年生が、唐鍬(とぐわ)を主に使用し、ディブル(地面に突き刺して植穴を開ける器具)も活用ながら、スギやブナの苗木を植林する作業を体験しました。先に植林を終えたグループが、まだ終わっていないグループの手伝いに行っている様子も見られ、どの学校の生徒さんも積極的に森林に興味を持っているようでした。これからの未来を担う生徒たちの懸命な様子に、我々もこれからの森林づくりに身が引き締まる思いでした。

